

1 学習習慣と学力について

(1) 家庭での宿題や予習、復習等に計画を立てて規則正しく取り組めることと学力の間には、非常に強い関係がある。

- 「家庭での勉強時間」と正答率には、小・中学生共に深い相関がある。これまでも同様の傾向がある。
- 「家で計画を立てて勉強している」「家で宿題をしている」と正答率には、小・中学生共に深い相関がある。これまでも同様の傾向がある。
- 「家で学校の予習をしている」「家で学校の復習をしている」と正答率には、小・中学生校共に深い相関あり、小学校では予習、中学校では復習において、特に深く相関している。これまでも同様の傾向がある。

(2) 教科が好きで、理解がすすみ、意義や有用感をもつことと学力の間には大きな関係がある。

- 国語の「勉強が好き」「大切だと思う」「内容がよく分かる」「将来、社会に出たときに役に立つ」と思ったり考えたりしていることと正答率には、小・中学生共に深い相関がある。
- 算数・数学の「勉強が好き」「大切だと思う」「内容がよく分かる」「将来、社会に出たときに役に立つ」と思ったり考えたりしていることと正答率には、小・中学生共に深い相関がある。

(3) 読書と、特に国語の学力には大きな関係がある。

- 「読書が好き」と国語・数学の正答率は相関している。
- 「家や図書館での読書の時間」と国語の正答率とは、小・中学生共に相関がある。これまでも同様の傾向がある。

<指導上の留意事項>

- ①授業づくりの工夫、指導の向上が求められる。
 - ・教科を好きにさせることが学力向上の第一歩である。子どもの関心・意欲を引き出し、勉強した事への満足感が感じられる授業の工夫が必要である。
 - ・知識や技能が定着し、「わかった」「できるようになった」という理解感、達成感を子どもが感じることができる丁寧な指導が求められる。
 - ・教科を学ぶ意義や意味、有用性についても、子どもが理解できるような授業づくりが必要である。
- ②家庭学習の習慣化に課題がある。
 - ・学校では、授業の内容と宿題の関係を吟味したうえで、適切な宿題を与えることについて、いっそうの工夫をはかる必要がある。
 - ・予習や復習の意味について、わかりやすく説明すると共に、予習や復習の意義が実感化できるような授業づくりについても工夫を加える必要がある。
 - ・苦手な教科についての勉強方法について丁寧に指導すると共に、家庭での克服方法を保護者と連携しながら共有化できるようにすることが必要である。
 - ・家庭における学習習慣の確立については、学級担任に一任することなく、学校をあげて、多くの機会、方法をとらえて、アプローチしていく必要がある。
 - ・発展的な課題・学習にとりくむことが望ましい子どもには、自学自習の発展のさせ方を知らせていくことも大切である。
- ③読書指導のいっそうの充実が求められる。

2 生活習慣と学力について

(1) 基本的な生活習慣や家庭でのコミュニケーションが確立されていることと学力の間には、非常に強い関係がある。

- 「朝食を毎日食べていること」「同じくらいの時刻に寝ている」「同じくらいの時刻に起きている」「早寝早起き」「睡眠時間の多さ」と正答率には、小・中学生共に深い相関がある。これまでも同様の傾向がある。
- 「家の人と学校での出来事について話をしている」と正答率には小・中学生共に相関が深く、特に小学生ではかなり深い。これまでも同様の傾向がある。

(2) 規範意識をもっていることと学力の間には非常に強い関係がある。

- 「学校のきまり(規則)を守っている」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と正答率には、小・中学生共に深い相関がある。これまでも同様の傾向がある。

(3) 自尊意識をもっていることと学力の間には非常に強い関係がある。

- 「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある」「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している」「自分にはよいところがある」と思っていることと正答率には、小・中学生共に深い相関がある。これまでも同様の傾向がある。

(4) 学校の勉強だけでなく幅広く社会的事象の関心をもつことと学力の間には大きな関係がある。

- 「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」と正答率とは、小・中学生共に相関がある。特に中学生に深い相関がある。

<指導上の留意事項>

- ①基本的な生活習慣の確立へむけての取り組みが求められる。
 - ・規則正しい生活習慣を学校と家庭が連携を深める中で、はかっていく必要がある。
- ②規範意識を日常から大切にできる子どもの育成をはかると共に、家庭や地域とも連携を深める必要がある。
- ③自己肯定感、自己有用感をもてる生活づくりへの取り組みが求められる。
 - ・粘り強く物事に取り組み、達成感が得られる生活づくりを、学校・家庭の協力の中で育てていく必要がある。
- ④家庭での対話や社会的事象への話題化への取り組みが求められる。
 - ・家庭では、学校の出来事や社会的事象についても、積極的に話題化してもらえるよう協力体制を構築していくとともに、授業の中では、社会的事象にかかわる題材を多く取り上げ、学活や道徳等においては、家庭での対話や話しあいにつながるようなとりくみを行っていく必要がある。

3 その他

「解答時間が十分であったか」の質問が全校対象でなくなったために、特に中学校数学でのデータがない。これまでに、特に小学生において、「調査(テスト)形式に慣れていない」ことが課題としてあげられていたが、「2. 調査結果の分析」での無解答率の推移に見られるように、課題はある程度以上の改善がはかられたと考えている。